第3編　学　校　別　研　究

【　目　次　】

沼　田　小　学　校 ……４９
沼　田　東　小　学　校 ……５３
沼　田　北　小　学　校 ……５７
升　形　小　学　校 ……６１
利　南　東　小　学　校 ……６５
池　田　小　学　校 ……６９
薄　根　小　学　校 ……７３
川　田　小　学　校 ……７７
白　沢　小　学　校 ……８１
利　根　小　学　校 ……８５
多　那　小　学　校 ……８９
沼　田　中　学　校 ……９３
沼　田　南　中　学　校 ……９７
沼　田　西　中　学　校 ……１０１
沼　田　東　中　学　校 ……１０５
池　田　中　学　校 ……１０９
薄　根　中　学　校 ……１１３
白　沢　中　学　校 ……１１７
利　根　中　学　校 ……１２１
多　那　中　学　校 ……１２５
利　南　幼　稚　園 ……１２９
薄　根　幼　稚　園 ……１３３

利　南　幼　稚　園

所 在 地　　〒３７８－００１４　　沼田市栄町１４１番地
電話番号　　０２７８－２３－１０７１　ＦＡＸ　２３－１１８６
園 長 名　　下田　高男

Ⅰ　園の経営

１　園の教育目標

『人間性豊かで心身共にたくましい子』

〇明るく元気な子　　・友達と仲良く遊ぶ子　　・豊かに表現する子

２　経営方針　　【スローガン】　わくわく　ドキドキ　楽しさいっぱい　夢いっぱい

(1)　全職員で子どもの姿を共有し､教員の持ち味を活かした『チーム保育』の充実

(2)　幼児が様々な環境や友達とかかわり、学びのある主体的活動の重視

(3)　感じ、考え、表現する力の育成をねらいとした計画的活動

(4)　危機管理能力向上と安全指導に努め、幼児にとって安全・安心な幼稚園づくり

(5)　教師同士が協力し、互いに高め合う活力ある幼稚園

３　本年度の重点施策

(1)　一人一人の幼児にとって望ましい保育の充実

①　幼稚園の様々な活動に幼児が主体的にかかわり、試行錯誤し、達成感を味わえるような主体的活動を意図的、計画的に取り入れ、協同性や思いやりの心、自己肯定感を育む。

②　幼児一人一人の特性に応じたより質の高い保育をすすめるために、週日案や保育記録を活用してＰＤＣＡサイクルをもとに指導計画及び保育実践、環境構成の改善、充実を図る。**【振り返り】**

③　絵本に親しみ、いろいろな思いや考えを感じ、自分なりのことばで表現する楽しさを味わえるような読み聞かせ活動を計画的にすすめる。**【家族で本を読みましょう】**

④　園内研修を中心とした実践的研修を通して、教員一人一人の保育力の向上を図り、質の高い保育実践をすすめる。

(2)　安全、安心、健康な生活が送れる幼稚園づくり【セイフティ沼田】

①　「げんきっこチェック表」を活用した『げんきっこウィーク』や『げんきっこデイ』を計画的に設定し、家庭と連携を図りながら基本的生活習慣の確立を図る。

②　食物の栽培、収穫を通して食への興味や関心を高めながら健康な体作りを推進するとともに、生活管理指導表に基づいたアレルギー疾患への対応を的確に行う。

③　定期的な安全点検や業者による巡回点検、遊具点検を確実に行い、その結果を全職員で共有するとともに、改善箇所等早期対応に努める。

④　様々な想定による実践的な各種避難訓練を計画的に実施し、危機回避能力を身に付けさせるとともに、安全計画及び危機管理マニュアルの見直し、改善を図る。

(3)　家庭、地域、学校と連携の充実

①　各たより、掲示板連絡、写真日報等で幼稚園の様子や幼児の遊びを通した学びの姿を具体的に知らせることで、園の方針への理解を深めながら信頼関係を築く。

②　幼・小の『つながり』を意識した園児、児童との交流活動や幼・小の教員による情報交換や交流を通して小学校への円滑な接続ができるようにする。**【幼小中連携】**

③　地域の人や自然、文化等に触れる機会や行事を計画的に実施し、幼児が地域に親しみをもち、豊かで温かな心と郷土愛をはぐくむ。　**【沼田大好き！】**

Ⅱ　園内研修の推進

1　研修主題及び設定の理由

～研　修　主　題～
絵本の楽しさを味わい、豊かな感性と表現力をもった幼児の育成
～ねらいや手立てを明確にした読み聞かせ活動の工夫を通して～

本園では昨年度「進んで絵本に親しみ、豊かな感性と表現力をもった幼児の育成」を主題に読み聞かせに関する指導計画の見直し、改善や幼児の感動や内面の動きに添った援助、幼児が思いやイメージを表出できるようにするための援助、家庭における読み聞かせ活動への働きかけなどを中心に研修に取り組んだ。読み聞かせ後の遊びから友達への優しい姿が見られたり、絵本発表会を通して思いを友達に伝える楽しさを感じ、自分でイメージを膨らませてお話作りを楽しんだりするといった成果を上げることができた。一方、読み聞かせ後の感想や思いを言葉で表現することに個人差が見られたり、教師側のねらいと違った幼児の感想や姿が見られたりするといった課題があがった。また、「読み聞かせの日」を設定したり、読み聞かせに関する講演会を行ったりしたことで家庭の意識も高まりつつあるが、家庭によって意識差があった。

そこで昨年度の研修を踏まえ、題材の選び方や読み聞かせの方法、環境などについて、ねらいを明確にした読み聞かせ活動に焦点を当て、幼児が絵本の世界から喜びや哀しさ、切なさ、怒りなどの様々な感情を受け取り、その感情を発達段階に応じて様々な形で表現できるようにしていきたいと考える。あわせて、幼児が絵本の楽しさを十分に味わえるような家庭への支援を含めた環境作りを進めていきたい。

幼児の実態と関わり
- 絵本や読み聞かせに関心の高い幼児が増えている。
- 登場人物の気持ちを考えたり、「どうして○○しちゃったのかな」など、絵本の世界を感じる幼児の姿がある。
- 年少児はまだ自ら絵本を読もうとする姿は見られないが、自分の関心の高いものに興味を示す様子が見られる。
- 年中児は読み聞かせ中に集中が切れたり、話の内容から自分の話を始めたりする姿がある。
- 年長児は思ったことを表出できるようになった幼児もいるが、自分の思いを表現できない幼児もいる。

指導の在り方との関わり
- 絵本コーナーや絵本の部屋の環境構成を工夫・再構成し、幼児が積極的に絵本と関われる場の設定を工夫する。
- 幼児の内面を大切にした読み方や園児の実態や生活に関連した絵本の選択について工夫していく。
- 読み聞かせ後に、それぞれの幼児の心や頭の中で思い描いたイメージを膨らませることのできる援助を工夫する。
- 幼児から出てきた言葉や表情を丁寧に受け止め、受容する。
- 幼児が感性をはたらかせている場面(感じ、考えている姿)を教師が適切に捉え、代弁したり、必要に応じて言葉で伝えていく。

2　研修内容・方法

絵本の楽しさを味わい、豊かな感性と表現力を高める幼児を育てるために、題材の選び方や読み聞かせの方法・工夫、絵本の環境作りに視点を当てた読み聞かせ活動の有効性を明らかにしていく。

(1)具体化した目指す幼児像

３歳児：絵本を楽しめる幼児

４歳児：絵本を楽しみ、絵本から様々な思いを表現できる幼児
５歳児：絵本を楽しみ、感じた思いや考えたことを表現しながら友達と伝え合える幼児

(2) 具体化した目指す幼児像を達成するための共通実践する手立て

・読み聞かせに関する指導計画の見直し・改善
・幼児の生活や興味・関心、発達段階に応じた絵本の選択
・幼児が絵本を楽しむための読み聞かせ方法の工夫
・幼児の思いやイメージを表現できるような援助・工夫
・家庭を含めた読み聞かせの環境作り

Ⅲ　研修計画・経過報告

月日	研修計画［内容］	経過報告 ［○研修の視点（上段）・明らかになったこと（下段）］
4.12	・研修主題の検討 ・研修内容検討	○前年度の反省及び今年度の研修内容と進め方について ○幼児の実態の把握と課題検討、テーマの決定
5.18	・園内研修計画確認	○研修主題・内容・方向性についての基本的な考え方と共通理解 ○研究構想及び目指す幼児像図式化
6.3	・指導計画検討（１期） ・指導計画検討（２期）	○年間指導計画における絵本の読み聞かせ、表現に関する各学年の内容について共通理解、具体的手立ての見直し及び検討
7.20	・保育実践研究 ・実践事例検討 	**・【年少児】絵本「ばばばあちゃんとアイスパーティー」より** 読み聞かせを通して、絵本・氷遊びを関連させたアイスの壁面製作を取り入れたことで、五感を使って絵本の世界を楽しむことができた事例。 **・【年中児】絵本「おおきなかぶ」より** 自然物に関心をもったり、読み聞かせ後に、本書のリズミカルな台詞に合わせて集団遊びを楽しむ姿が見られた事例。 **・【年長児】絵本「星空キャンプ」「たなばたプールびらき」より** 文化会館のプラネタリウム鑑賞へ行った経験から、友達とイメージを共有して遊びを発展させる姿に繋がった事例。
8.25	・指導計画検討（３期）	○絵本の読み聞かせ、表現に関する各学年の３期内容について共通理解、具体的手立ての見直し及び検討
10.14	・保育実践研究 ・実践事例検討 	**・【年少児】絵本「もぐらもぐもぐ」より** いろいろな言葉を考えたり、のびのびと表現したりする楽しさを味わうことができた事例。 **・【年中児】絵本「うさぎをつくろう」「おつきみおばけ」より** 製作活動の導入として読み聞かせをし、造形活動にのびのびと取り組み、事後の歌唱や遊びに繋がった事例。 **・【年長児】「ひとりぼっちのかえる」「10ぴきのかえるシリーズ」** クラスで飼育しているカエルを通して、“生き物”や“命”について友達と一緒に考え合うきっかけとなった事例。
11.1	・指導主事訪問	○研修の方向性や研修内容について指導
11.4	・指導計画検討（４期）	○絵本の読み聞かせ、表現に関する各学年の４期内容について共

		通理解、具体的手立ての見直し及び検討
1.10	・指導計画検討（５期）	○絵本の読み聞かせ、表現に関する各学年の５期内容について共通理解、具体的手立ての見直し及び検討
1.24	・園外研修	○市立図書館へ行き、絵本の見識を広げる
2.21	・保育実践研究 ・実践事例検討	○３学期の各学年におけるねらいをもった読み聞かせ実践研究事例検討
2 3.2	・研修のまとめ ・来年度の方向性の検討	○成果と課題、幼児の変容について ○反省と次年度の研修の方向性、課題検討

Ⅳ　これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

・読み聞かせ前後に関連した壁面製作や保育室の飾り付けなど、読み聞かせの方法を工夫したことで幼児は絵本の内容をイメージしやすく、絵本の世界に入りやすくなり、絵本をより楽しむ姿が見られた。

・読み聞かせ後、絵本の内容に関連したごっこ遊びや製作活動、表現活動を意図的に取り入れたことで、幼児が感じた感情を再確認し、より深く刻むことができた。

・絵本から感じたことや思いを表現した作品等を発表し合う場面を設定したことで、自分の思いや考えを友達と共有できた喜びを感じることができた。思いを表現することの安心感や自己肯定感にもつながったと考える。

○課題

・自分の思いや感情をうまく表出できない幼児がいる。幼児が感性をはたらかせている場面を教師が適切にとらえ､代弁したり言葉で伝えたりして思いを表出することへの抵抗感をなくしていきたい。

・教師が幼児と一緒に活動し、常に幼児の感性に寄り添い、幼児の気持ちや思いをとらえ、共有していかなければならないと考える。

○課題解決に向けての今後の取組

・行事や体験に関連した絵本コーナーを設けたが、幼児の関心に任せすぎてしまっていた部分もあった。教師が意図的に幼児を誘ったり、促したり、読み聞かせをしたりして、積極的に活用していく。

・幼児が多様な絵本に触れたり出合ったりする経験を豊かにするためには、教師自身が探究心をもって絵本を知ることが必要である。市立図書館に閲覧・借りに行くなどして、今後も教師の資質向上に努めたい。

〈　職　員　一　覧　〉

職　　名	氏　　名	職　　名	氏　　名
園　　長	下田　　高男	教　　諭	板井　　美芳
教　　諭	戸部　　葵	補助教諭	大坪　留美子
教　　諭	松井　　逸希	用　務　員	大竹　　秀男

薄　根　幼　稚　園

所在地　　〒３７８－００６４　　沼田市善桂寺町７８番地
電話番号　０２７８－２３－０６５１　　FAX 番号　０２７８－２３－０５８８
園長名　　佐藤　広幸

Ⅰ　幼稚園の経営

１　幼稚園の教育目標

人間性豊かで心身ともにたくましい幼児

○明るく元気な子（重点目標）○仲良く遊べる子　○進んで取り組む子　○豊かに表現する子

２　経営方針

○「幼児の笑顔のために…」園、家庭、地域が協力して子どもを育てる幼稚園

⑴ 友達と関わる中で自他の良さを認めながら、主体的に活動し**豊かに育つ幼稚園**
⑵ 様々な体験を通して幼児が伸び伸びと自己発揮でき、**自己肯定感が持てる幼稚園**
⑶ 教師が明るく元気で、学び合い・高め合い・協力し合う、**活気ある温かい幼稚園**
⑷ 家庭と連携協力し、基本的な生活習慣と社会性の育成、子育て支援に努める、**共に歩む幼稚園**
⑸ 地域社会や小中学校と協力して、育ちの連続性を見通した**連携を進める幼稚園**
⑹ 危機管理と安全指導に努め、**安全で安心して過ごせる幼稚園**

３　本年度の重点施策

⑴ 幼児期の豊かな学びを支え、確かな学びが得られる保育の充実

①異年齢交流等、多様なかかわりを通して育ち合う中で、かかわる力を高める援助の工夫をする。
②幼児の興味や関心に即した主体的な活動の中で、自己発揮しながら必要な体験を積み重ね、自己肯定感を感じながら確かな学びができる環境作りをする。
③反省・評価、個人記録の蓄積を通し、必要な体験が得られる環境の構成や援助の工夫をする。
④職員間の連携や保育カンファレンス､研修による多面的な幼児理解を指導力の向上につなげる。
⑤実践研修を積み重ね、分析、考察を通して保育の充実と指導力の向上を図る。

⑵ 健康な心と体を育てる生活習慣の育成

①「早寝・早起き・朝ごはん」を推進し、家庭と連携して健康な体づくりの基となる望ましい基本的生活習慣を確立する。
②食育を推進し､食べ物の興味や関心を高めながら栽培活動や食べる経験を計画的に取り入れる。
③運動の要素を取り入れた遊びを工夫し､楽しく体を動かす活動しながら運動能力の向上を図る。

⑶ 安心・安全の確保

①安全点検を中心に、園内外の環境を整えて安全確保に努め、幼児が安全に過ごせる幼稚園作りをする。
②危機管理マニュアルやアレルギー管理指導表など、安全確保に関わる事項を周知徹底し教職員の意識と実践力を高める。
③交通安全指導や災害時の避難訓練を通して､安全意識の高揚と危機回避能力を身につけさせる。

⑷ 家庭・地域・関係機関と連携した教育活動の推進

①保護者に幼児の育ちや学びを具体的に伝え、園の理解を深め、成長を喜び合える信頼関係作りをする。
②配慮が必要な幼児に対して、関係機関と連携しながらより良い支援ができるようにする。
③新型コロナウィルス感染症に配慮した行事の持ち方について、保護者と共に考え効果的に実施する。
④絵本が情操教育に大切なことを知らせ、親子読書の意識を高める。
⑤地域の人や自然事象との触れ合いから、郷土愛や豊かな感性を育んでいく。
⑥小中学校と、互恵性のある交流や、育ちの連続性を踏まえた連携を図り幼児の成長を支える。
⑤幼小中ＰＴＡ連携スローガン「子どもは地域の宝物、ほめて叱って励まして、みんなで育てる薄根っ子」を基に、地域の教育力を活用する。

Ⅱ園内研修の推進

1　研修主題及び設定の理由

～研 修 主 題～
主題　　異年齢交流を通した人とかかわる力を育てるための工夫
副主題　　～園行事に視点を当てて～

幼児の実態との関わり

・年長児６名、年中児２名、年少児２名と各学年が少人数クラスのため、いろいろな友達と関わる機会が減り、集団遊びの楽しさや人とかかわって遊ぶ面白さや葛藤を感じることが難しくなっている。
・言葉のやりとりをする姿はあるが、相手の気持ちを思いやりながら、自分の思いを伝えたり相手の思いを聴こうとしたりすることに課題がある。
・集団の中で、主体的に自己発揮をし、他者から認められる経験が少ないことが課題である。

指導の在り方との関わり

・相手の気持ちを考えてコミュニケーションがとれる環境構成の工夫が必要である。
・人とのかかわりの中で、表面的な活動の体験ではなく活動までの過程での内面の育ちを重視し、集団の中で幼児がどのように必要な体験をするか、どのような感情体験をするかを考えながら環境構成をする必要がある。
・幼児が主体的に活動できるための援助の仕方や言葉かけ、また自己有用感をもたせるための工夫について、共通理解していく必要がある。
・ねらいをもって環境構成や援助を工夫するために、教師間の情報交換や話し合い、連携を密にして、異年齢交流の場を設定し、次の活動に活かしていくことが重要である。

2　研修内容・方法

(1) 具体化した目指す幼児像
・いろいろな体験や行事を通して、人とのかかわりや集団での自分の役割に気付ける幼児。
・自己主張のぶつかり合いによる葛藤などを通して互いに理解し合う体験を重ね、共感や思いやりの心をもつ幼児。
・自分の力を発揮したり、互いの良さを認め合ったり協力したりして、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わえる幼児。

(2) 具体化した目指す幼児像を達成するための共通実践する手立て
・異年齢で一緒に楽しみ、育ち合っていけるような遊びを日常的に計画的し、行事を活用して成果と課題を共通理解しながらかかわる力を高めていく。
・集団での体験で幼児が主体的に活動できるよう、行事や交流のねらいをもとに、早い段階から過程を重視した計画を立て共通実践をしていく。
・表面的な活動の体験ではなく、体験を通して気付いたり、思いを伝えたり、思いを受け止めたりできる環境構成の工夫をしていく。
・毎日のカンファレンスを通して幼児の姿を多面的に理解し、主体性を発揮したり、自己有用感をもったりできる働きかけを工夫していく。

3　研修計画・経過報告

4　これまでの研修の成果と今後の取組

○成果
・園行事に視点を当て、友達と意図的にかかわれるような行事のもち方を職員間で話し合い、それまでの過程も大切にしてきたことが、幼児の友達への関心を高め、人とかかわる姿につながった。
・幼児に相談したり考えさせたりする場面を増やし、自分の言葉で伝えたり考えて行動したりしたことを教師が受け止め共感することで、周りの幼児も関心をもち、互いの良さを認めたり協力したりできるようになった。
・人とかかわる力を育てるためには、普段の遊びや生活の中で友達の姿に目が向くような教師の意図的な声かけや工夫が効果的であった。

○課題
・園行事という一つの目的に向かって友達と一緒に活動を進めていく楽しさは感じられていたが、普段の遊びのなかでは、友達との関わり合いが希薄である。教師が幼児同士で目的やイメージの共有をしていけるよう、友達同士をつなぐ援助を今後も意識していく必要がある。

○今後の取組
・先の行事を見通し、遊びや生活がつながるよう教師間でねらいや手立てを共通理解し計画していくことが大切である。
・異年齢で人とのかかわりを育てるには、他学年の実態や課題、成長の姿を共通理解することが必要不可欠である。今後も日々の保育カンファレンスを重ね異年齢保育の質の向上に努める。

月	研修計画［内容］	経過報告 ［○研修の視点（上段）・明らかになったこと（下段）］
4	研修主題、内容の検討	○幼児の実態や自園の課題、研修の方向性、内容の検討 ・人とかかわる力に課題があるので、少人数のなかで、異年齢交流を土台として教師の意図的なかかわりや環境構成の工夫をしていく。教師間の情報交換や話し合い、連携を密にし、異年齢交流の場を設定し、事前の話し合いをもとに計画的にすすめていく。 ○本園の目指す幼児像 ・一緒に活動するなかで、自分の役割に気付ける幼児。 ・自分の気持ちを伝え、相手にも気持ちがあることに気づき、共感や思いやりの心をもつ幼児。 ・自分の力を発揮し、互いの良さを認め合ったり協力したりして、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わえる幼児。
5	研修計画検討	○異年齢交流のもち方の検討 ・年間行事のもち方を、人とのかかわりに重点をおいて段階的に計画する。 ・行事だけの交流にならないよう普段の遊びや生活での異年齢のかかわりを大切にしていく。
6	実践事例研修	○実践事例「さつまいも植え」の検討（抜粋） 　大人数のなかでは人任せにして自分からかかわろうとする様子が見られなかったので、２～３人のグループにし、一人一人がかかわる機会を作った。 ・少人数にしたことで、相手の様子に気づき自分なりにかかわろうとするグループもあったが、かかわり方が分からず戸惑っていたグループもみられ教師の援助が必要だった。
7	実践事例研修	○実践事例「夏祭り会」の検討（抜粋） 　普段の遊びから、まつりっこを踊ったりお店屋さんごっこをしたりして言葉のやり取りを促し、多くの友達とかかわれるようにした。そのなかで、相手の存在や気持ちに気づいたり、感謝の気持ちをもったり友達と協力したりすることで、みんなで一緒の行事を楽しめるようにした。 ・毎日の遊びのなかで、楽しい雰囲気を感じ取り、やりとりが広がった。 ・ごっこ遊びの時間が十分とれなかった年長児は、相手とのやりとりの中で不安そうな様子が見られた。
8	実践事例研修	○1 学期の行事の反省・評価・課題を検討 ・先の行事を見通し、スムーズに遊びや生活がつながるよう、教師間でねらいや手立てを共通理解し計画していくことが大切である。
9	実践事例研修	○実践事例「カレー会食」の検討（抜粋） 　例年は、各クラス別々だった作業を、全て遊戯室で行い、異年齢の友達の姿や役割に気がつき、つながりを感じられるようにした。 ・同じ場で行うことで、異年齢の友達や様子に目が向き、協力し合う場面が生まれた。 ○実践事例「運動会の玉入れ」の検討（抜粋） 　通例、年中組の競技である玉入れを全学年混合のチームに分け、昨年経験のある年長児をチームリーダーにした。いつでも玉入れができるよう年中児の部屋に玉入れのか

		ごを置き、異年齢の友達の様子に気づけるようにした。 ・チームで遊びの段階から異年齢の子の様子を見ながら取り組んだことで、異年齢の子の様子を意識したかかわりが多くうまれた。 ・普段のかかわりで人任せにしていた幼児が、チームリーダーとして頼られることで、小さい子にも目が向き、自分なりに考え行動することができた。 ・難しさを感じていた年少児クラスにカゴを移すと練習している様子に気づき教えたり応援したりする思いやりの気持ちの育ちが見られた。
１０	実践事例研修 指導主事訪問	○実践事例「さつまいも掘り」の検討（抜粋） 　当初は、苗植えのグループでと考えていたが、運動会の玉入れの経験や育ちをつなげ、同じチームにすることで、チームの友達に親しみ、かかわりがさらに深められるようにした。 ・玉入れで協力した経験を生かしたことで、友達の気持ちや様子に気がつき、異年齢でつながりが深まった。 ・関係が深まってきたチームで、芋ほりに取り組むことで、異年齢でのやりとりが増え、友達を意識しながら行動する姿が見られた。 ○研修内容についての指導・助言を受け今後の研修に生かす ○実践事例「焼き芋会」の検討（抜粋） 　芋掘り同様チームを継続し、一人一人の作業にならないようチームで意見を出し合いながらお互いの良さを出し合い認めていけるよう教師がモデルとなり一緒にすすめていくようにした。 ・教師が一人一人のつぶやきや意見を逃さずチームで共有していくことで、一人一人が仲間の一員として主体的に取り組むことができた。 ・作業の方法を、子どもの案を取り入れたことで、一人一人が自分の意見を出し折り合いをつけながらかかわる姿が見られた。
１１ ・ １２	実践事例研修 （普段の遊びから）	○異年齢の遊びについて 　各クラスの秋の実遊びの場をつなげ、異年齢のかかわりが生まれるよう遊びの内容や環境を見直した。 ・目的がはっきりした活動では、かかわり合いながらすすめていく姿が見られたが、自由に遊ぶ中では、教師の友達同士をつなぐ援助がないと、相手の様子に目が向かない幼児が多くかかわりが少なかった。 ・自由に遊ぶ中で教師がかかわり方のモデルとなり一緒に楽しむことで、人とかかわる力がついてくると感じた。
1	研修のまとめ	○成果、課題、今後の取組について

＜職　員　一　覧＞

職　名	氏　名	職　名	氏　名
園　長	佐藤　広幸	教　諭	北野　法子
教　諭	磯貝　理恵	用務員	斎藤　澄夫
教　諭	宇敷　里奈		